

あけましておめでとうございます！



s
s
み
ら
い
新
聞

第 137 号
2025 年 1 月
発行責任者
新津 尚

ショートステイみらいも 12 年目を迎える年になりました。ここまで運営して来たのも、皆様のご理解やご鞭撻、ご協力があってやって来ました。

介護業界の環境は、必要性が年々高まりながらも介護業界で働く人は逆に減り、職員の確保もかなり厳しい時代になりました。また、業界の国からの補助金も削られ、介護業者の倒産も多くなっています。日本の高齢者のピークは、20 年後のようですが、その時の介護職員数の不足は 50 万人と言われています。これから先、日本の介護に政治はどのように対応していくのでしょうか？
今から真剣に取り組んでい欲しいものです。

介護とロボットの力

ロボボン（コミュニケーションロボット）の開発者高橋智隆さんの話（抜粋）

まずは見守り用途です。実際に一人暮らしだった祖母が 3 日間倒れたままになっていたことがありました。ロボットと日常的にコミュニケーションを取っていれば、そういった事態を防げるはず。また、社会との接点が減っていく中で、日々が退屈で単調になっていって、それが原因でより老化が進んでしまうことも考えられます。ロボットとの会話を通じて新しいニュースを知り、それをきっかけに外出したり体を動かしたりする。そういった支援ができると考えています。介護現場では人手不足が深刻な問題となっていますが、介護にかかわるさまざまな作業について、ロボットによる支援は可能だと思いますし、すでに導入している施設もあります。私はできることはどんどんテクノロジーの力を借りるべきだと思います。

介護の兄弟トラブル

民法では、子どもには親の扶養義務があると定められています。しかし実際の介護の現場では、「誰が」「どこで」「どのように」介護を担うのかをめぐって、深刻な兄弟トラブルが発生しています。最も典型的なトラブルが、「介護の押し付け合い」です。①在宅介護を担う兄弟が不満を持つケース②施設入所をめぐり意見の対立③遠方在住の兄弟がほとんど現状を把握していないケース④親の資産管理や財産分与に関する衝突

兄弟トラブルを防ぐための事前準備

- 1, 親の意向を確認しておく
 - 2, 経済状況を確認しておく
 - 3, 兄弟間で役割分担をする
 - 4, 兄弟間での介護費用の分担方法
- * 効果的な話し合いの場づくり
 - * 負担の可視化と具体的な役割分担
 - * 専門家の支援を活用した解決策の検討